

中央東

第 54 号
令和6年3月4日



原点 田中修二

(女池小学校 昭六十二年度)

一 今、現在を思う

令和二年一月。国内で新型コロナウイルスの感染が確認されました。その時はまだ危機感を持っていなかったように思います。それからいろいろなことが次から次へと起こっていきましました。「暗中模索」「五里霧中」はこのようなことか、と日々苦慮してきました。本当に。

そして、今年。新型コロナウイルス感染症は五類感染症に移行し、以前の暮らしを取り戻してきたかのよう感じられます。今後、数年すると昔話のように語られるのでしょうか。しかし、この三年で社会は大きな変化をしています。特に教

育現場は様変わりです。もちろん、日々の暮らし全てにまで変化をもたらしています。こうした日常の変化は、新型コロナウイルスの感染拡大以前から起こっていたのかもしれませんが。

二 変わらないこと

変わりゆく社会を感じながら変わらないことは何か常に自問しています。私はこれまで道徳教育の研修に時間を割いてきました。それは「正しい」「社会正義」と言うことを児童生徒にどう伝えるか、ということの思い、様々な研究会、研修会、論文、文献などで考えながら試行錯誤する中で、道徳教育に傾倒していくようになったと思います。

未来人である児童生徒に判断力を身に付けてもらうには「正しい」「社会正義」は必要なことです。無論、その範たる教職員には必須です。

三 社会の中で「正しい」とは

自分なりにこのように考えます。社会というのは、多くの人が集まっているもの。その中で出来るだけ釣り合いをとる、バランスを保つ、そのことを「正義」と呼んでいると思うのです。悪を懲らしめるものではないでしょう。

人間の体になぞらえて言えば、「正義」は健康のようなもの。全身がバランスよく働いていれば、健康に過ごせます。それと同じように、社会も全体としてバランスがとれていれば、正義が実現されていることになり

ます。身体は常に変化しています。そうした中でバランスを保つ働きがあります。同じように、常に変化している社会のバランスをとることが正義なのだと思います。

正義が社会の釣り合いだとすると、それを個人では決められないということ、維持するには、社会の仕組みが必要です。それが、これまで人が英知を駆使し

て創り上げてきた法であり組織なのです。

四 個人の「正しい」とは

自分の中の判断だけでは正しいかどうか分かりません。それでも「これでいい」と、行動すると結局、「正義は暴走」するのです。そして、暴走したらそれはもう正しくはない。しかも堂々とはなく、こそこそならもはや反正義、反社会行動なんです。個人が「正しい」を求めらるなら「自分も、相手も、みんながいい、安全で安心」で判断し行動することです。

五 原点 田中修二

規範意識も同じように考えています。規範意識のバックボーンは世間、地域の文化、風土です。地域社会に根ざした生活習慣から逸脱する行為を抑制する意識が低下したことにより、他人の目を気にしない、怖くないといった「私様」が増加しているように感じます。

デジタル社会が進化し、自己中心の自由平等、個性第一の生活スタイルが定着してきましたが、「みんながいい」と思える社会を求める未来人を育成することを願ってやみません。ロールモデルとなるのが私たち教職員です。